羽藤氏葬儀にテメル前大統領＝**36**年間の政治家人生に幕

羽藤譲二氏と家族の記念写真（撮影・望月二郎）

　サンパウロ市議を長年務めるなど３６年間も政治家として活躍してきた羽藤譲二氏が、1月２８日の夜に自宅で亡くなった。数年前から心肺系の病気で一進一退を繰り返していたが、今回突然の心肺停止に陥った。享年７０歳。

　羽藤氏は１９４８年2月２６日、サンパウロ州内陸部パカエンブー市生まれの二世。７６年にサンパウロ市のサンタカーザ・デ・ミゼリコールジア大学を卒業後、一般外科医として従事した。

　１９８２年には、民主運動（ＭＤＢ）に入党し、サンパウロ市議に初当選。以来サンパウロ市議員を7回務めた。飲酒禁止令、騒音禁止法、二輪ヘルメット令など法案を実現し、社会に貢献してきた。

　２０１０年にはサンパウロ州議に初当選。昨年はサンパウロ州議員に立候補をしたが、再選には至らなかった。

　昨年来、脳梗塞でも苦しんでいた。自宅で療養し回復していた矢先、今回心配停止に襲われた。

　羽藤氏の遺体は２９日にサンパウロ州議会の玄関ホールに安置され、テメル前大統領、ドリアサンパウロ州知事、アウキミン元サンパウロ州知事も葬儀に出席した。１５時にはヴィラ・アウピナ区の火葬場へ運ばれた。